



公開レクチャー記念インタビュー

制度設計のヒントは実験にあり

実験経済学 濱口泰代先生

___先生のご専門はどのような分野ですか？

私の専門分野は実験経済学という分野です。実験経済学は、抽象的な経済学理論を被験者実験を行うことによって検証します。心理学実験と少し似ているところがありますが、経済活動に関する人間行動を対象にするところが特徴です。

___実験というと自然科学のイメージですが、経済学でも行なわれるのですか？

はい。経済学においても、実験を行うことは珍しくありません。実験には、風洞型実験と理論検証型実験があります。前者は、現実と似た環境を実験室に作り出して、人々の行動を調べます。後者は、まず検証する理論があり、その理論に関係のない雑多な要因をできるだけ排除した環境を実験室に作りだして、実験結果が理論予測と整合的かどうかを調べます。実験経済学の研究のほとんどは、後者のタイプの実験です。

___先生のご研究は実験経済学という分野にどのように貢献するものですか？

独占禁止法の一部である課徴金減免制度について理論検証型実験を用いて研究しています。

___課徴金減免制度、ですか。これを実験で検証する理由があるのですか？

談合を行った企業が、公正取引委員会にその違法行為を自ら報告し、談合の証拠を提供するならば、課徴金が最大で100%免除される制度、これが課徴金減免制度です。談合などの違法行為の証拠は通常隠蔽されるため、実験によって談合が行われる状況を再現し、課徴金減免制度の効果を検証しています。市場が健全に機能するための制度設計に関する研究として、実験経済学の分野に貢献しています。

____なるほど、証拠が隠蔽されるからこそ実験が重要になるのですね。

はい、そういうことです。

____ところで先生のご担当科目は「実験経済学I」と「実験経済学II」ですね、それぞれどんなことを勉強するのでしょうか？

実験経済学Iでは、主にミクロ経済学のトピックを扱います。実験経済学IIでは、主にゲーム理論のトピックを扱います。実験というものを理解してもらうため、学生さんには、スマートフォンを使って実験を実際に体験してもらうことで学習の理解を深めてもらいます。

____授業で特に心がけていることはありますか？

学生さんに経済学の理論の理解を体験的に習得してもらうことです。例えば、談合に関しては、法律で禁じられているというだけの理解に留まるならば、実際の企業行動を深く理解することはできません。実験に参加すると、違法行為を行ったときの利益と課徴金を比較して、自分にとって得なのはどちらかを身をもって体験できます。



____なるほど、授業のなかで実験を通じて違法行為をバーチャル体験するわけですか。

はい、そのような疑似体験によって、経済学理論がいかに上手く制度設計に役立つかを身をもって理解することができます。実験結果を理解するには心理学の知識も必要です。実験をしながら、経済学理論と統合的な結果とそうでない結果を観察し、なぜそのような結果が生じたかを、経済学以外の分野の仮説も取り入れて解説するようにしています。

____では最後に、高校生の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

経済学は、国全体の大きな問題について考えるだけの分野ではありません。むしろ、企業や個人のレベルの行動を、論理的かつ実証的に理解するのが得意とする分野です。大学で真剣に経済学を学べば、とてもやりがいのある学問であることがわかるでしょう。皆さんは、これからいろんなことを学んでいくと思いますが、その学びの基礎になる論理的な考え方を、経済学を通じて得ることができれば、そのスキルは一生役に立つと思います。